

# 屋外でソアる4

校長室でH  
海水浴場でH  
新しい彼とH  
露天風呂でH  
さらに番外編を収録！



「はあ：はあ：  
ああ 可愛じよお

春菜ちゃんあん…♥』

れ  
る  
『ん…  
ああ…  
んああ…  
』

む  
にゅ  
♥

む  
にゅ  
♥

ぐく

ぐく

「は 春菜ちゃん

ちっ 亂首ひじかでせひじかじハ♡」

「え？  
ち  
乳首ですか…？」

ぶるるん

「ひやああんっ！」

『♪♪♪』

びくん  
るる

くり  
るる

るる  
るる



「うひょー♡  
伸びる伸びるーっ♡

「ああっ♡  
ひっぱっちゃだめですぅっ♡」





「うへへえ  
乳首の感度良好だねえ～」

「やああああ…♥  
きつ  
気持ちいい  
気持ちいいよお  
乳首が気持ちいいのあ♥」



「それじゃあ  
こんなのはどう♥」

ひくんつ♥

ちゅぶつ♥

ちゅぶつ♥

ちゅぶつ♥

びくんつ♥

「はつ  
はひつ♥  
だつ  
だめええつ♥  
ち  
乳首とろけちゃいますううう♥  
やあああつ♥  
とけちやうう  
とけちやうううううう♥♥

くりつ  
くりつ♥

「うへへえ…  
もうこんなにぐちゅぐちゅじゅないしか…  
すぐに挿れてあげるからね♥』

「ああ…♥  
は…早く…早く頂戴…♥  
もう我慢できないのああ…♥♥』



「おおおふうううつ…  
ぜっ 全部入ったよおお…」

「ああ…  
あう  
かう  
やう  
あちゃんちん挿れられただけなのに…  
身体が…しびれちゃってるう…つ  
『』

ズ  
リ  
ゅ  
り  
ゅ  
り  
ゅ  
り  
ゅ

「ふんっ！ ふんっ！ ふんっ！」

「ああああんっ  
いいよあつ  
奥にひつ  
奥に当たつてえつ  
気持ちいい  
気持ちいいのああっ」

ぶちゅっ

ぶちゅっ

ぬちゅっ

どちゅっ

「ふしゅうつ♥ ふしゅうつ♥  
はっ春菜ちゃんはワシだけのモンだもんねーっ♥  
ぜつ絶対誰にも渡さんぞおりっ♥」



「めおおおおおおおおあつう！」

どびゅ  
びゅるるるっ

びくん

びくん

『ああつ  
熱じいじつ  
熱い精液があああつ  
』

びゅく  
びゅつ  
びゅつ



「はあ…♥ はあ…♥  
春菜ちゃんの膣なか  
気持ちよかつたよお♪♥』

「はあ…♥ はあ…♥  
わ私も… 校長先生のおおちんちん…♥  
気持ち良かつたですう♪♥』



私達、相思相愛のカップルにみえるかも知れませんが

実は私…

校長先生に秘密にしている事があるんです。

それは…

その…

私、今…

他に付き合っている人がいるんです…♡

勿論、校長先生の事は好きですけど…

今は… 新しい彼の方が…♡

その人とお付き合いする

きっかけになつたのは一ヶ月前…。

そこで彼との突然の初H♡

彼の若くてたくましい巨根に私の

アソコが一目惚れしてしまつたんです…♡



一  
か月前  
一



「結城くん...」

「今日は思いきり  
楽しもうねっ」

どきんっ  
『あつ ああつ』

てううーつ  
かわいいなあ～ 春菜ちゃんっ

「あ…  
ちよつとロッカーに  
忘れ物しちゃつた…」

「もお何やつてんのよ春菜あ  
しょうがないなあ  
春菜一人じや心配だから  
私も行ってあげるよ」

「ありがと」

「じゃあ オレと猿山は  
ここで待ってるから」

「りょうかうい♪」

15分後—

（春菜ちゃん達遅いな…  
ひょっとしたら道に迷ってんのかも…  
）この辺田舎だからなあ…）

その頃 春菜達はというと  
トップレス姿で逆ナンした  
ギャル男共とお楽しめ中♡でした



(ああ…♥)

大っさい… それに校長先生のより硬あい…♥

(この人に声かけたの正解だったみたい…♥)

(せっかく海に来たんだから たまには 校長先生以外の  
おちんちんも味あわないとね♥)



(ああ…♥ ん…♥)  
こ この人…うまい…♥  
乳首擦りあげながら おっぱいも同時に刺激してくる…♥  
あ…♥ ああ…ダメ♥  
もうおちんちん欲しくなつてきちゃつた…♥  
早くイつて…♥  
早く精液出しちゃつてえ…♥  
早く私の瞳内にガチガチおちんちん挿れて欲しいのぉつ…♥



(あああんつ  
すつごいおちんちん脈打つてるう  
量もすつごおい  
こんなのが膣内で出されちゃつたら私  
壊れちゃうかもお  
うふふ  
楽しめい)

とひゅん  
とひゅん

びゅるん  
びゅるん



「つたぐ最近の女子校生は凄いねえ 堪んねえなあっ』



「はあんつ♥」

「ふああああつ♥ 淫いひゅうつ♥」  
「気持ちいいひつ 気持ちじよおあつ♥」  
「気持ちよすぎでええ もうつ わけわかんなじひゅうつ♥」

どちゅつ♥

「あああんつ♥」

ぶちゅつ♥

ぬちゅつ♥

びくつ♥

「んああつ♥」

びくんつ♥

ぶるつ♥

ぶるんつ♥

「おいおい そんなエロボイスで  
叫びまくってたら男共が群がって来るぞ(笑)」

びくつ  
「ああんつ♥」

びくんつ

ぶちゅつ♥

「なんかこの辺りから

あえぎ声が聞こえ…

おおおおつ♥

おいつリトあ

あれ見ろよおつ♥

あのカップル共こんな所で

ハメてやが…

ハメてやが…

あれ西連寺達じやねえかあつ♥

おつ おい あれ西連寺達じやねえかあつ♥

うあおつ マジかよお♥

すっげええつ♥

西連寺達の生ハメええええだあつ♥♥

ほああんつ♥

ぬちゅつ

どちゅつ

「ああんつ♥」

「んあああんつ♥」

ぬちゅつ

ぶちゅつ





「なつ なああいリトおつ  
オ オレ達も西連寺達にお願いしてみようぜえつ！  
やつ やらせてくれるんじやねえかつ？」

「そつ そんな事…つ  
…言える訳ないだろ…つ」

(それにさんな事言つたら  
**春菜ちゃんに軽蔑されちまう…つ**)

「けつ

根性なしがあ…つ  
そんならオレはいくぜえ…つ  
おまえの好きな西連寺とハメまくつてやるぜえ  
それでもいいんだなつ？」

「じ…つ！  
…かつ 勝手にしろ…つ」

(春菜ちゃんが猿山なんかに  
身体を許す訳ないだろ…つ  
玉碎されるのが目に見えてんだよ…つ)







「はああああんっ♥♥」  
「ダメえっ♥」  
「そんなに出しちゃダメええっ♥」



春菜ちゃん達の乱交は  
目が暮れるまでおこなわれた…



長い長い夏休みが終わり  
今日から二学期が始まる

ちなみにオレは  
海水浴に行つた日以降  
春菜ちゃんと猿山には  
会つていなーい：

はー： 二人の事が気になつて  
今日はいつもより  
早く学校に来ちまつた：

まだ教室には  
誰もいなそうだな：

ガラ：

「なあつ いいだろお?』

『ダダメだよお  
ここ教室だよつ  
誰かに見られたくよつ』

はーつ

はーつ

『はつ 春菜ちゃん…つ  
と猿山…つ』  
『一人とも こんな朝早くから  
何やつて…  
やべつ 隠れないと…つ』

はーつ



「だってよお 春菜あ  
オレのコト もうこんなになつてんたせえ  
この状態のまま 授業受けろつていうのかよお」

「あんっ  
夏休みの間中 毎日Hさせて  
あげてたじやない…」

「彼氏がしたじつて言つてんたせ  
もう…  
しょうがなじんだから  
彼女は素直に応じるもんどうお？」

「ケニイチくんっ たら…

もう…  
しょうがなじんだから

はーっ  
はーっ  
はーっ

「あの一人…つ  
いつの間にか  
名前で呼び合つてる…つ  
てゆうか かつ かつ  
彼女だとおーつ！」

「てゆうか かつ かつ

彼女だとおーつ！」



「へへっ  
教室でするつてのも  
なかなか新鮮でいいなあ♥」

『ふあああつ♥♥』

「ばかっ  
声でけえよ」  
春菜

『さ  
みんなさ』

「猿山の野郎うつ  
春菜ちゃんに  
何で口の利き方を…う」

ぶちゅう  
にちゅうちゅう

びくんっ

「あつ あの二へつ  
朝つばらから  
しかも教室でおっぱじめ  
やがつたあつ  
だつたあつ 誰か来たらどうすんだあ」

「はあつ はあつ  
おおおつ 番まんねんぜえつ  
春菜のまんこあつ  
こんな名器せつてえ他にいなじせえつ」

「あんつ ほんと?  
ほつ ほんと?  
んああ あつ  
うつ 嬉しげつ  
もつとお ケンイチくんの  
好きにしていいかあつ  
私の事お もつと好きになつてええつ  
♥♥♥

「は... 春菜ちゃん...  
そ... そんなやつの...  
どくがそんなにいいんだよ...」



「おらあつ！  
いくぜえりっ  
濃厚ミルクだあーつ！  
しつかり下の口で味わえよああつ！」

本日一発目

「ひやああああああん  
ケニイチくんの  
熱々ミルク♪  
ああつ  
あそこがどうけちやうううつ♥♥」

「は… 春菜ちゃ…」



「クラスメイト達の  
スク水姿見てたら

我慢できなくなっちまつた



はーっ

「あい春菜あ

よつとお

「あほおおおっ こりやいいっ

はーっ

周りはスク水だらけえ

オカズだらけだぜえっ

♥

ケニイチくん

はーっ

「あああつ  
ちよ ちよっとお  
どき見てるのよつ  
私以外の子は  
見たらダメなのあつ」

「はいはい

わかってるつでえ

びくっ  
「ひ....ア  
こつ この外道があ...つー」

ぬふふふう  
♥

びくっ

びくっ





猿山の家

「はあっ はあっ  
なあ 今日もオレん家泊まつて  
いくだろおっ?」

「あああんっ  
ごめんなさい  
今日はあ お姉ちゃんの  
誕生日だから  
帰らないといけないのぉ?」

「ちっ しうがねえなあ  
その分  
やりまくつてやるからなあ  
覚悟しろよお!」

はーっ

はーっ

もにゅん  
ひぐん

「あああんっ  
うう  
うんっ  
いっ  
いっぶじしてドロよお!」

ぬちゅう  
ぶちゅうちゅ

「おらおうあつ！」

『春菜はオレだけのモノだあつ！』

リトなんかには

勿体なすぎるぜえつ！』

『ああああんっ  
激しいの好きいひつ  
もつと私のあそこお  
ちやぐちやにかき回してえつ！』



「ひじううううううう！」

「ああああああんっ♥♥』

とびゅつ

びゅるっ

びゅるるるるっ  
びゅううう  
びゅううう  
びゅううう  
びゅううう

『ケーライナちゃんっ  
大好きっ♥♥♥♥』

「まてよ…  
春菜の姉…  
秋穂さんか…」

「へへ…  
いい事思じついたぞ」

「あんつ  
ダメだよお  
ケニイチくんは私の彼氏なんだよお」

お姉ちゃんばかり

「まあまあ 春菜あ  
そんなにケチケチしないで  
姉として妹の彼氏のおちんちんの  
味見くらいしないとね♥  
それにしても この間より（屋外でソープる3参照）  
随分大きくなったわねえ♥」

『え！ 何それどうゆう事…？』

『き  
やばつ ほつ ほら春菜あ  
おちんちん一緒に  
ペロペロしよっ♥』



「ああ…♥  
ケンイチくんのおちんちん…♥  
こんなにビニビニになってる…♥  
早くイク所見たい…♥」

「ふふ♥  
おちんちん びくんびくんしてる…♥  
私と春菜におちんちんペロペロされて  
興奮してるので…♥  
いいのよ  
苦しいでしょ?  
ほら 早く出しちゃいなさい♥  
私達に熱い精液ぶっかけたいんでしょ?」

変態さん♥」



「あああんつ  
出たあつ♥ 私達にいっぴいかけてええつ♥♥」

どびゅつ  
びゅう  
びゅう  
びゅう  
びゅう  
びゅう  
びゅう  
びゅるるる

「あはあああつ  
何この量しつ♥  
すつごおおおおいつ  
あああつ♥ 精液で溺れちゃいそうつ♥♥」

「はあつ♥ はあつ♥  
ああ♥  
この匂い臭いじやうとお  
もう我慢できなくなつちゃううう♥♥

『すっこい濃いい♥  
やば♥  
頭クラクラしきちゃううう  
私もお  
もう我慢の限界い  
♥♥』

「ああ♥

はつ  
早く

早く

はつ  
奥まで頂戴！つ♥

これ以上我慢したら

おかしくなっちゃううううう♥

「へへ…  
わくつたよお  
ホント淫乱な彼女だぜえ♪  
はつ  
はつ  
はつ  
はつ



「お～うよ つとおおつ！」

「はああああんつ♥♥」

「へへえ  
思いつきり奥まで  
ぶち込んでやったぜえつ」

ちゅぶ  
ちゅぶ

（ふふ…♥ 春菜つたう…  
普段は大人しい子なのに  
Hの時はあんな声  
出しちゃうんだ…♥）

ぶちゅんつ♥

びくんつ  
びくんつ

びく  
びく



「あらああらあおらあつ！」

今日は無茶苦茶にしてやるからよおつ  
気絶すんなよおつ！」

「ふあああつ♥ひやあああんつ♥  
すごつ いよおあつ♥  
私のあそこあつ♥

噴水があつ 止まらないいじつ♥  
はむ♥

（あ…♥  
早く私もおちんちん  
挿れて欲しい♥  
春菜のこんな表情見ちゃつたら  
私も欲しくなつちゃうじやない…♥）



「ひぎあおおおおおおつづー！」

「あはああああんつづ♥♥」

「熱々精液いいつ  
これが好きなのおおつ  
私のあそこおお  
もっと精液まみれにしてえええう♥♥」

(ああ…♥)  
春菜イってるうう♥  
ああ…♥  
ぞくぞくしちやうう…♥  
ぞくぞくしゃうう…♥  
やば…♥  
見てるだけで私まで  
軽くイっちゃった♥



「えへへ  
お姉ちゃんのHな所  
いっぱい撮ってあげる♥」

「えっ  
ちよ  
ちよっと春菜あ」

「ふちゅんっ♥  
さやああんっ  
こらフ猿山くんっ  
いついきなり挿れちゃダメえっ♥  
ひつスしぶりなんだからあ  
もつとゆっくりじ♥」

「へへ  
秋穂さんのまんこお  
妹さんのよりキツキツっすねえ♥  
あんまり使つてないんじやないっすかあ♥」

「うつうるさいつ  
いいじから早く動きなさいよお♥」



「ああ…♥  
お姉ちゃんすっぽりHな表情してるぅ♥」

「あああんつ  
はつ  
春菜だめえ  
と  
撮らないでえ  
Hなあ  
余計にい  
あんつ  
あんつ  
余計にい  
あんつ  
余計にい  
あんつ  
春菜だめえ  
撮らないでえ  
撮らないでえ  
撮らないでえ

「うぐうつ  
キ  
キツくて気持ち良すぎるう  
秋穂さんもつもうオレ  
うからああつ」

「ああんつ  
頂戴つ  
秋穂くんのお  
トロトロ精液ちようだいっつ  
いきますよおつ」

ぬちゅ  
ぶちゅ

ずちゅ

ぶちゅ  
ぬちゅ

ぶちゅ  
ぬちゅ

「あはあ  
お姉ちゃんいいなあ  
すっこい精液で下のお口に飲まされちゃってる〜♥」

「ああうマ！」

「はあううう！」

「ああああああんっつ♥」  
「何これええつ♥」  
「凄すぎるうううう♥」  
「私の脇内あ  
精液で満たされちゃってるうううう♥」  
「こつこんなに  
出すなんてえ 反則だよおつ♥」



「へへ♥  
ちよっくら極上の蜜でも  
頂くとするかあ♥」



「ああつ♥  
ケニイチくんそれえ  
すっごい気持ちいいいづつ♥♥」  
「ケーライチくんの舌があ  
私のあそこお  
ぐちゅぐちゅにかきまわしてるうう♥♥」

『うひょーつ♥ぐちゅつ♥  
美味えええつ♥  
やっぱまんこ汁の味は  
格別だぜえつ♥』

「あつ♥ ああ…つ♥  
わつ 私のあそこでえ  
お魚が暴れてるみたいいつ♥♥♥」  
「ひやあんつ♥ あはあつ♥  
きつ 気持ちよすぎるうううつ♥♥♥」



「うじおおおつ  
はつ 春菜あつ  
にはつ 握りすぎいいつ  
はうううううううう！」

あああんつ  
出たあつ  
私の精液いいつ  
ケニイチくうん  
今度は私の膣内で出してええつ

びゅうつ  
びゅうつ  
びゅうつ

どびゅうつ  
びゅうつ  
びゅうつ  
びゅうつ  
びゅうつ

「ダメよ春菜あつ  
今度は私の番  
なんだからあつ♥」

「ぶちゅんっ♥

「うじおおおじううつ

「ああああんっ♥」

びくんっ♥

むにゅっ♥

「あはああつ♥  
いつたばかりの敏感おちんちん  
私のあそこでえ  
いじめまくってあげるうつ♥♥」

「ぶしゅんっ♥

むにゅっ♥

むにゅっ♥

「ほらほらあつ  
どう♥私のあそこお♥  
春菜のよりい

ぐちゅぐちゅでえ

締まりが良くてえ

おちんちんがあ

死んじゃうくらい

気持ちいいでしょあつ♥

「うふふ♥

なあに?  
もうイキたいの?お?♥

「うふふ♥

なあに?

もうイキたいの?お?♥

「じいわよ♥  
私が受け止めてあげるからあ  
ありったけの精液い  
全部思いつきりぶちましてえつ♥♥」



「あつ ああつ  
秋穂さ ああああんっつ！」

「私もおお  
いつくううううううつ♥♥」

「ひやあああああんっ♥♥」

「はあつ  
すごつ ああつ  
おちんちんがあつ  
脈打つてるううつ ああつ

「はあ…♥ はあ…♥  
あつ♥ まつ 待つて…  
わっ 私もう限界なの…  
これ以上されたらホントに  
おかしくなつちやうから… わ?  
今日はもう…」

「あつ♥ だめだめっ  
待つてつ ホントにダメなのあつ  
あつ♥ もつ もう  
これ以上 ホントにダメなのあつ  
挿れちゃダメえつ♥」

ぶちゅ  
ちゅつ♥

びくんつ♥



「はあ…♥ はあ…♥  
あつ♥ まつ 待つて…  
わっ 私もう限界なの…  
これ以上されたらホントに  
おかしくなつちやうから… わ?  
今日はもう…」

「あつ♥ だめだめっ  
待つてつ ホントにダメなのあつ  
あつ♥ もつ もう  
これ以上 ホントにダメなのあつ  
挿れちゃダメえつ♥」

ぶちゅ  
ちゅつ♥

びくんつ♥



「ああああああつ<sup>ハート</sup>  
だつだめええつ<sup>ハート</sup>

ははははああつ<sup>ハート</sup>  
壞れちゃうううつ<sup>ハート</sup>

いやああつ<sup>ハート</sup>  
春菜があ見てるのにいい<sup>ハート</sup>  
私の壞れちゃうううつ<sup>ハート</sup>」

「ああああ  
気持ちいい  
気持ちいいの  
ああつ<sup>ハート</sup>  
ああつ<sup>ハート</sup>  
もう死んじやううう  
あはああつ<sup>ハート</sup>  
死んじやうよおおつ<sup>ハート</sup>  
ああああ  
気持ち良すぎてええつ<sup>ハート</sup>  
あはああつ<sup>ハート</sup>  
死んじやううう  
ああああ

イクイクイクううつ<sup>ハート</sup>  
イッちゃうううつ<sup>ハート</sup>  
ああああ

びくん<sup>ハート</sup>  
びくん<sup>ハート</sup>  
びくん<sup>ハート</sup>  
びくん<sup>ハート</sup>  
びくん<sup>ハート</sup>  
びくん<sup>ハート</sup>



「イっくうううううううううう

「あああ

もうつこのおちんちんじやないとダメな身体になっちゃったあああ

遊うつ

じめんなさいうう



「わっ 私もお  
壊れるくらい犯してええっ♥」

「んああああつ♥  
ああつ♥ しゃごじじいっ  
あああつ♥  
奥にイイ  
奥に当たりまくってるよおおつ♥  
ああああつ♥」

ぶちゅん

「はひつ♥」

ぬちゅん  
ずちゅん  
ぶちゅん

「あはつ♥」

ひく

びくん

ひく



「ひやああああんつっ♥♥♥

「ケーラーくんの精液ひゅう  
あああつ  
私に一生飲ませてえええつ♥♥♥」

ひゅるるるる



屋外でソープる4 END

番外編

「春菜 アルバイト  
始めました♥」

こんにちは春菜です

実は最近 家庭教師の  
アルバイトを始めたんです

ちなみに私の教える学科は…!  
実技を交えての保健体育です♥

場所は私の部屋でおこないますので  
もし読者様でご希望の方  
おられましたらいつでも  
ご応募お待ちしております♥ なんてね えへ♥

ピーポーン

あつ 生徒さん来たみたい♥

「いらっしゃい♥

そうそう ちゃんと  
廊下で全部脱いできたわね

えらいえらい

春菜先生に教わる時にはね

生徒さんは全裸ってゆうルールが♥

ふふ♥それじゃあ

早速はじめましょうか♥

ルールがあるの

「ねあ かわいい  
おちんちん♥  
『えい♥』

どきゅ♥

どきゅ♥

ぶるん♥

ふん♥

「あれえ?

どうしてこんなに硬くなつて  
上を向いていいるのかな?』

『先生の裸見て  
興奮しちやつたの?  
ふふ いけない生徒さんね  
そんな悪い生徒さんにはあ  
おしあきしないとね  
えへじ』

びくんっ  
『にぎにぎり  
にぎにぎり  
ふふ  
かわいい  
びくびく  
しちやつてえ  
神られたのは初めてかな?』

びくんっ

びくんっ

にぎ  
にぎ  
にぎ

にぎ  
にぎ  
にぎ

びくんっ

「ほ～うあ♥

もっこと強くするよお♥

えいっ♥

ふふふ どう?

おちんちん おしつこの時しか使つてなかつたでしょ

ダメだよ！」

毎日ちゃんとこうやつてえ

すんごい気持ちいいでしょお？

えいっ♥



「あああんっ  
出たあっ♥」

「初めての射精おめでとうう  
これが精液だよう♥  
まだ出てる〜♥」

「わっ♥ すごい♥」

どびゅ

びゅるるっ  
びゅうっ  
びゅうっ  
びゅうっ



(ホーネットにすごい量お  
濃厚だしい  
ふふ♥  
この子なら楽しめてもらえそう♥)



「そう おちんちんを私のあそこ<sup>♡</sup>  
挿れるの<sup>♡</sup>』



「ふふ<sup>♡</sup> 怖いの<sup>?</sup>  
大丈夫よ 女の子のあそこはあ  
おちんちんを挿れる為に  
できてるんだからあ<sup>♡</sup>  
お互いすっつじ  
気持ちよくなれるよお<sup>♡</sup>』

「あっ♥ あああっ♥  
そっ そう♥  
ああ♥ いいよ♥  
そう 奥までえ  
ああ♥ ああ♥」



「ふむ♪ どう女の子の  
あそここの感触はあ♥  
じゅぢゅヌメヌメに包まれてえ  
おちんちん蕩けそうなくらい  
すっごい気持ちいいでお♥  
女の子のあそこはね  
おちんちんを気持ちよぐする為に  
できてるんだから♥」



「あああんっ♥ ああっ♥  
まつまだ説明が終わってない…っ  
はあんう♥ んああっ♥  
ちよちよつと待つ…っ  
ちよちよつと待つ…っ  
はああんう♥」  
「あああああつ♥  
いっいきなり激しく  
しちやだめええつ♥  
はああんう♥」  
「ああああつ♥  
ああああつ♥  
かつ感じすぎちゃうからああつ♥」

びくっ♥  
びくっ♥  
びくっ♥  
びくっ♥  
びくっ♥  
びくっ♥

ずぶっぬぶっ♥  
ずぶっぬぶっ♥



「ええっ まっ まだするの?」  
「やああああああつ♥♥♥  
出でるううううつ♥  
私の膣内にいいつ  
濃厚精液がああつ♥  
だつ だめえつ わつ 私の授業はあ  
もう終わりなおつ♥

番外編(END)